

芦別「創生塾」広がる活動



道の駅「スタープラザ芦別」で昨秋開催された「高校生カフェ」でオムレツを載せた焼きそばを作る生徒たち。本年度から任意団体に主権が変わる

「放課後に生徒の相談に乗る芦別高空き教室はどうか」「企業関係者を招いた講演会をしてみたら」。市内で5月8日に開かれた任意団体の員会では、新たな事業として複数のアイデアが飛び出した。民間の自由な発想で事業を実施しようと、芦別市や赤平市の関係者10人が4月24日、市内で設立した。事務局は市教委が

任意団体を設立 小中生も対象

【芦別】芦別高の高校生カフェなどまちづくりに貢献する人材育成を目的とした市教育委員会の「地方創生塾」は本年度から、新たに設立した任意団体「芦別市地方創生塾」に主権が変わる。小中高生を対象に、地元の企業関係者による郷土愛を育む事業やキャリア教育などに取り組む。嶋大輔塾長は「芦別で働きたい、暮らしたいと思えるような事業実施に向け知恵を絞りたい」と話す。

高校生カフェで実績 郷土愛育む事業など検討

地方創生塾は北海道立生涯学習推進センターが主催する2年間の事業として2020年度に始まった。世代間交流や地域活性化を目指し、芦別高の生徒が考案、調理したメニューを道の駅「スタープラザ芦別」で販売する「高校生カフェ」の準備を進めた。だが、新型コロナウイルスの影響で開店できず、22年度から市教委が引き継いだ。高校生カフェは24年度まで3年間、2年生を対象に計4回開催。生徒が考えたオムレツを載せた焼きそばなどを1日限定で販売し、毎回ほぼ完売するなど人気だった。2回目以降はカフェの売上金を市に寄付し、活動発表会も実施。24年度はカフェに加え、香水やお菓子などの商品開発、芦別の炭鉱、観光について調べた成果を発表する活動なども行った。本年度からは任意団体の力で活動の幅を広げる考えた。市教委は「今後実施可能な事業について内容を詰めていきたい」としている。

(宋戸透)